

●インドネシアプロジェクト状況(2018-2-11)

50kgの挽いたコーヒーをTangsi Jayaにあるキオスク(小さな店)で販売しました。コーヒー農園の2017年12月度の収支決算では量はまだ小さいですが、間接費、直接作業費を含めても黒字となりました。コーヒー豆収穫期での生産量が増えることにより、収益の増加が期待されます。

1月には、西バンドン地方経済開発局責任者の訪問を受け、彼らは2018年の開発計画にTangsi Jayaの村の開発を組み込むこと、また農業担当役員は別の加工機械を購入する必要がある場合には手伝うことを約束してくれました。このように当該プロジェクトは着々と自立に向けて歩みだしています。詳細はTangsi Jaya PJのページを参照ください。



販売用コーヒー(挽き豆、焙煎豆)



西バンドン地方経済開発局責任者の訪問

●REPA事務局会議(2018-2-11)

REPA事務局会議は2月8日18時30分より千代田区図書館第一研修室で行われ、1月20日に開催された新春講演会&懇親会の総括、次回霊山プロジェクト予定、H30年度総会日程(6月2日(土)14時)などが審議されました。

●尾園代表理事が第1回適性技術フォーラム公開セミナーで講演(2018-2-27)

適正技術フォーラム主催、APEX共催の第1回適性技術フォーラム「分散型エネルギー供給と適正技術」が、2月24日JICA東京国際センターで開催され、当協会が現在進めている「再生可能エネルギー利用による村民のいきがい創出-インドネシアにおける海藻加工、コーヒー農園の事例から」を紹介しました。

その後のグループディスカッションでは「再生可能エネルギーにもとづく地域おこしをいかに進めるか」について有意義な意見交換がなされました。

注：適正技術とは、技術が適用される（主に途上国の）現場の社会的・経済的・文化的条件に適し、多くの人々が参加しやすく、環境の保全や修復にも資する技術

● 里山活性化講演会(広島県・世羅町) (2018-2-27)

2月27日(火)に開催された「脱温暖化プロジェクトせら」主催の「里山活性化講演会」で、当協会の堀内理事及び市橋理事が講演を行いました。

世羅町は「脱温暖化せらのまちづくりプラン」を策定するなど地球温暖化防止活動に積極的に取り組んでいます。その活動の一環として「里山活性化講演会 ～竹と雑木の利用を考えよう～」が開催され、当協会の堀内理事及び市橋理事が講演を行いました。木質バイオマスの有効利用は脱温暖化対策の一方策であり、自然災害に強い森林を創り、鳥獣害の拡大から人間の生息域を守るという考え方を背景に「脱温暖化のまちづくり」を考える場を設けるという目的の講演会でした。堀内理事は世羅町でも対策に苦慮している竹をテーマに「我国の竹利用と今後の展望」、市橋理事は千葉県で実施した「木質バイオマスエネルギーを活用したモデル地域づくり推進事業」(2013～2015年度 林野庁/環境省 委託事業)の紹介を中心に講演を行いました。



講演・会場風景



講演する堀内理事(左)と市橋理事